



1 国宝 天橋立図（部分） 雪舟筆 16世紀初頭（室町時代）

*画面の大きさは、縦89.4cm×横168.5cm（ほぼ畳1畳分）と大きく、20枚の紙が貼り継がれている。墨線の不連続、墨濃淡の差異、紙継ぎ間のずれなどから、大きな部分を別々に描き、後に組み合わされた絵であることが従来より指摘されている。

*上空からの視点を含め、沿岸のどの地点に立ってもこの図の構図と同じ景色が見える場所はなく、いわゆる「写生図」では無いことも明らかにされている。

*松の細部描写に目をむけると、天橋立の松に比べ、智恩寺境内周囲の松樹高が平均して高く描かれている。同じく籠神社から江尻にかけての山際には数本の松が巨大に描かれる。これらは天橋立中の植生とは異なったスケールで描かれているか、あるいは強調表現である可能性がある。

*天橋立中の松には過度に誇張された個体は無く、相対的な樹高は雪舟の目に映った情景が反映しているのではないかと考えられる。

*密度についても、相対としては当時の雰囲気を感じさせる可能性がある。



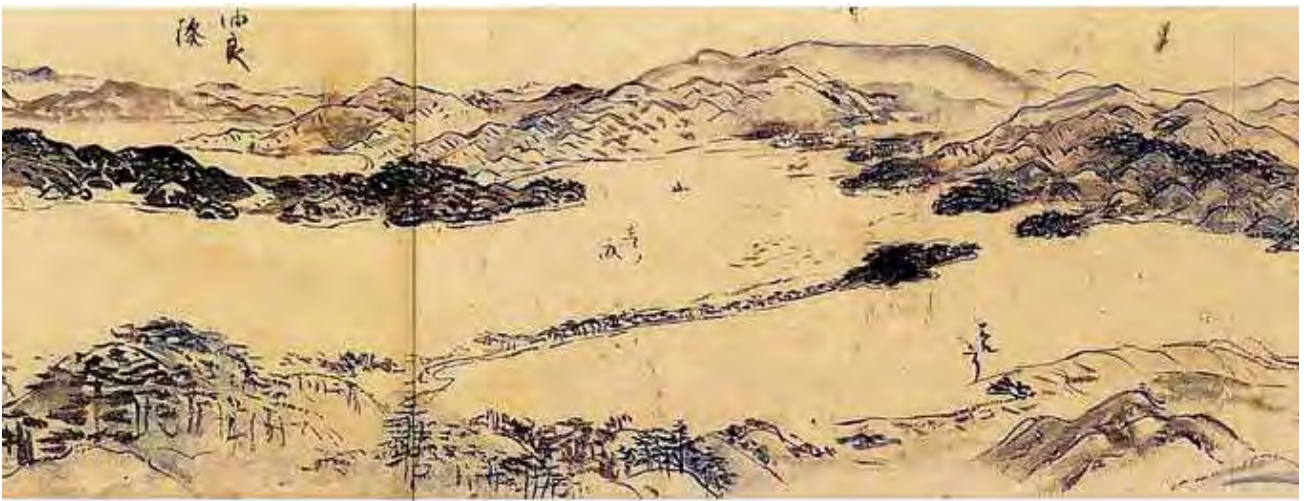
2 天橋立・須磨図屏風 16世紀後半(室町時代)

* 智恩寺境内の建物描写や配置が、他の名所図屏風に比べ現状に沿っている。特に現在も同位置にある鉄湯船が描かれている点は注目される。

* ただし地形をみてわかるように、全体的にはかなり図案化されている。

* 天橋立の松については、右から1・2隻目と3隻目では密度と個体の描かれ方が異なる。1・2隻目では密度は粗く単調で、個体もほぼ同じモチーフで描かれているが、3隻目では密で個体の高さも形態も変化が付けられている。

ここには橋立明神付近ではこれより江尻寄りより松が密であり、樹高に高低差がある実景が、一定反映している可能性がある。



3 天橋立丹後図画冊(部分) 狩野探幽筆 17世紀中頃(江戸時代)

* 成相時付近からの写生された風景画である。

* 橋立明神・智恩寺付近に比べ、天橋立中央部分から江尻にかけての松の密度がかなり粗である様子に描かれている。

* 樹高も前者は高く後者は総じて低い。

* 江尻沿岸近くでは松の描かれていない範囲があり、砂州の幅も狭まっている。



4 天橋立図（部分） 松翁斎筆 18世紀後半～19世紀前半（江戸時代）

- * 智恩寺付近がひととき大きく描かれており、遠近感の操作が行われている。
- * 天橋立の松についても、橋立明神付近の松がひととき高く描かれており、樹高の相対バランスも実際ではない。ただし、この付近に高い個体が集まっている傾向が把握できる。同じく、それより江尻寄りについては粗であったとみられる。
- * また橋立明神付近では、低木あるいは下草と見られる表現がある。

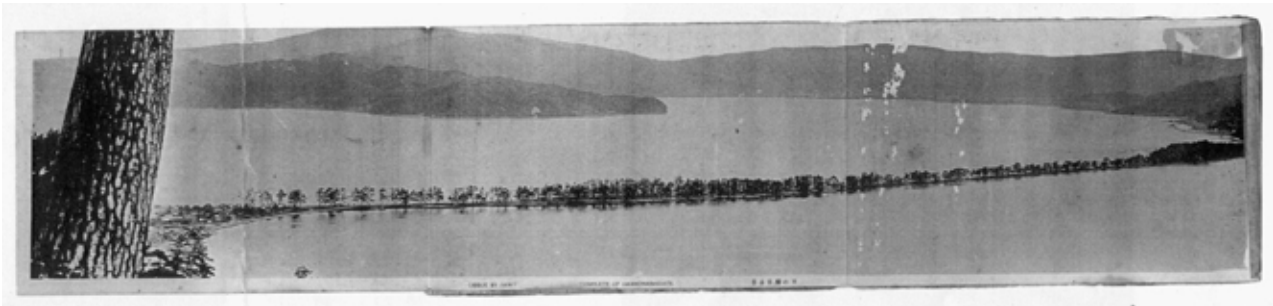


5 天橋立真景図（部分） 島田雅喬筆 19世紀中頃（江戸時代）



神社周辺の拡大図

- * 雅喬が現地を訪れている。智恩寺の境内がやや大きく詳しく、強調されている。
- * 3の探幽筆図より全体的に松が繁茂しており、橋立明神付近とその他の地点での 密度の差が一定回復している可能性がある。
- * 橋立明神付近の地表面は緑色で表現されており、低木あるいは下草の表現されているとみられる。
- * また、松以外の樹種とみられる表現がある。
- * 江尻付近では、短いながら松が途切れている部分がある。
- * 途切れた部分より江尻の陸地寄りの松は、相対的にやや樹高が高い。
- * 発達し始めた小天橋が描かれている。

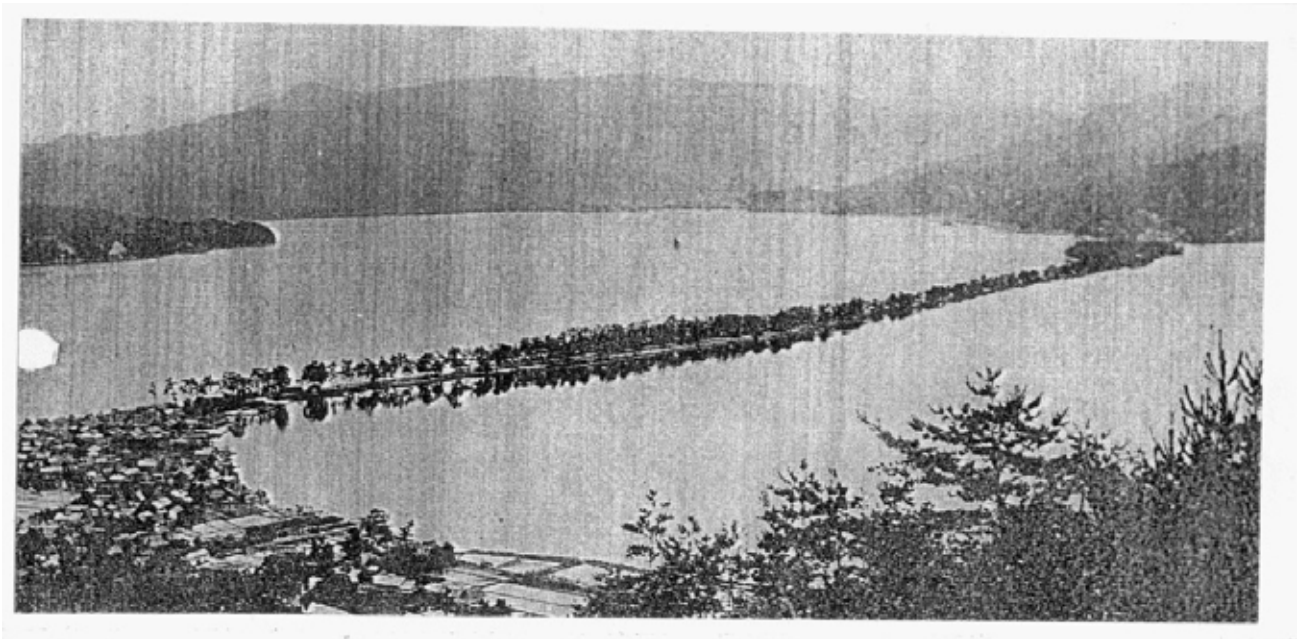


6 絵はがき 天橋立全景 明治12~19年発行

* 切手の券種が2銭と有り、表題の年代頃撮影された写真であることがわかる。

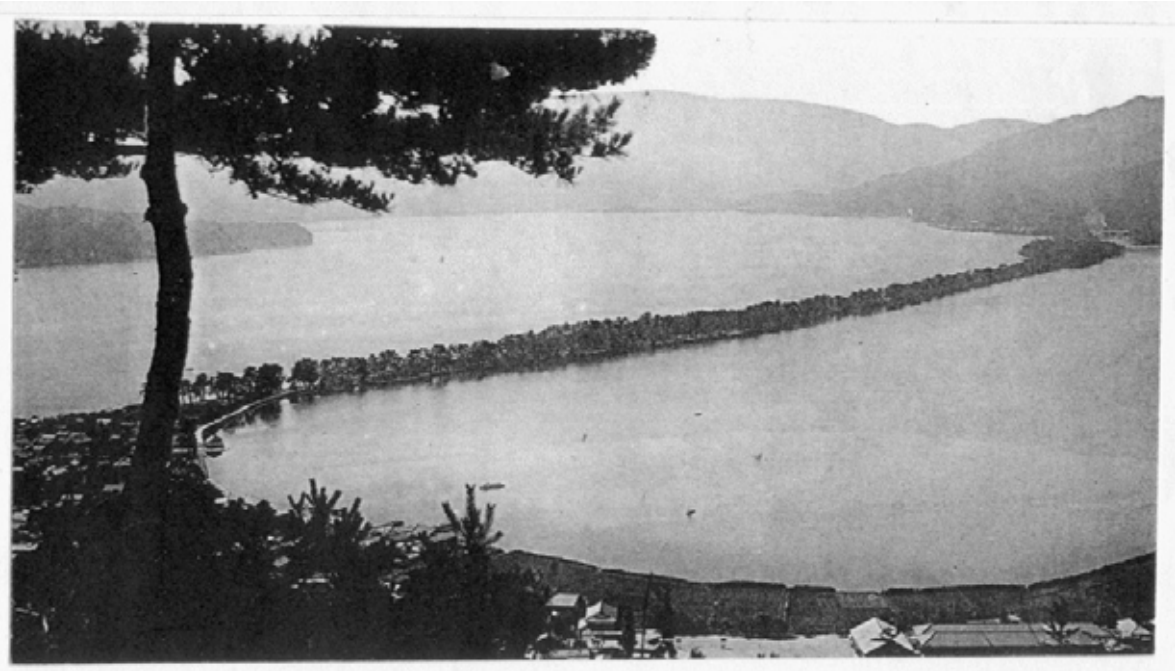
* 江尻近くの松の密度がかなり粗い。

* 橋立明神付近までの間、江尻寄り半分の範囲で密・高、橋立寄り半分の方がやや粗・低である。橋立明神付近では密であるが、写真から樹種までは読み取れない。



7 古写真 天橋立風景 明治36年撮影

* 6の頃より個体の成長のためか、やや密度が高まって見えるが全体として粗く、大きな変化は無い。



8 絵はがき 天之橋立全景 昭和 8 年発行

* 7 の頃より密度がかなり高まっており、全体として松並木が連続している。



9 写真 天橋立全景 平成 16 年 7 月撮影

* 台風 23 号以前の状況。昭和 8 年頃より松が繁茂し、松より宮津湾側の海面が透けて見える場所は無く、橋立明神付近が際立って密に見える状況に無い。